

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	建築学概論					授業形態	講義		
科目コード	237710	単位数	2単位	配当学年	3年	実務経験教員			アクティブ ラーニング
担当教員名	岡島 直方								
授業概要	<p>本講義は、造園を学ぶ者にとって知っておくといふ日本建築とそれを支える文化的原点を学ぶ。原始時代から始めて、平安時代の前頃までの内容となる。各授業時間の一部を使って、現代建築や西洋建築のデザインとそれを支える考えなども提示し、取り扱う時代のバランスをとる予定である。また、その時代の建築にかかわりのある絵画や彫刻などの内容も取り上げる。建築を建てるということは、社会活動において根源的な行為であると同時に、ものとしての姿を現すための機構の一つである。こうした根源への認識とともに日本建築の初期の歴史を探る。</p>								
関連する科目	建築は庭園との関わりが深いので「世界の庭園と歴史」の授業を受講してあることが望ましい。								
授業の進め方 と方法	<p>板書など知識の伝達においては、内容をノートに記録する必要がある。建物の図をかくこともある。授業のおわりに、授業内容を元にして要点をレポートにまとめてもらう。メモをとる必要がある。基本的知識の習得も大切であるため、建築要素の名称、歴史的事象の用語など小テストで確認する。</p>								
授業計画 【第1回】	1. 建築学の体系からみる本講義の位置づけ、建築学のはじまり (3つの観点：履修科目、資格試験、研究分野)								
授業計画 【第2回】	2. 建築学のはじまりについて 明治時代の出来事について学ぶ。								
授業計画 【第3回】	3. 建築と“architecture”の違い、原始時代の建築（縄文時代） ギリシア時代におけるarchitectureの意味を学ぶ。								
授業計画 【第4回】	4. 原始時代の建築（縄文時代から弥生時代） 遺構や遺物を元にした歴史が確定される様子を学ぶ。								
授業計画 【第5回】	5. 原始時代の建築 弥生時代から古墳時代にかけての石を用いた工作物などについて学ぶ。								
授業計画 【第6回】	6. 高床建築の流れから、奈良時代の建築 高床建築の系統が、伊勢神宮に受け継がれていった様子を学ぶ。								
授業計画 【第7回】	7. 高床建築の流れから、奈良時代の建築へ 伊勢神宮の特徴的なデザインについて学ぶ。								
授業計画 【第8回】	8. 伊勢神宮と日本の神話 伊勢神宮の祭祀の対象となった神について知る。								
授業計画 【第9回】	9. 出雲大社と日本の神話 出雲大社のデザインと祭祀の対象となった神の物語を学ぶ。								
授業計画 【第10回】	10. 伊勢神宮や出雲大社に関わる神話の整理 これらの神社建築に関わった神の、周辺情報を知る。								
授業計画 【第11回】	11. 飛鳥時代の建築（仏教建築） 仏教の伝来、伽藍配置、法隆寺概観について学ぶ。								

授業計画 【第12回】	12. 本授業の視点の確認、レポート課題説明とディスカッション 3回目の授業の視点をどう応用するかを通じて、期末レポートの内容に取り組むにあたり、それぞれのテーマを見つける参考にしてもらう。
授業計画 【第13回】	13. 飛鳥時代の仏教建築 仏教伝来、地域によって異なる施設形状、神仏建築の屋根形態、材料の比較による建築形態の変化について学ぶ。
授業計画 【第14回】	14. 飛鳥時代の仏教建築 法隆寺のデザインについて学ぶ。
授業計画 【第15回】	15. 全体の復習、小テスト 西洋建築における大きな転換点について学ぶ。
授業の到達目標	建築学の専門分野で造園と異なる特徴となっているのは、言語表現によって建築の意味を伝えていく活動である。本授業においては、建築における基本的知識の習得、建築要素の名称、用語を覚える。【専門分野の知識・理解】 また建築空間の意味を論じてもらう機会を持つので、その際に自分の感じることを文章として書くことが求められる。この機会を通じ自分の考えをまとめる能力を養う。さらに、取り扱い範囲の日本建築の特徴を他者に説明できるようになることに目標をおく。フリーハンドで描けることも大切である。【課題発見・分析・解決力】【高度な専門力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学修 【予習】	次回授業のテーマを予告するので、それについて調べてまとめておく (30分程度)
授業時間外の学修 【復習】	その日の授業に関連することを調べ、まとめる。(30分程度) 宿題が出た場合にはそれに取り組む。
課題に対する フィードバック	語句などを記憶を確認する小テストがある。小テストは解答を示す。
評価方法・基準	宿題、小テスト、レポートで30点、期末レポートで70点
テキスト	井上充夫『日本建築史』理工図書 堀口捨己ほか『建築士』オーム社 など
参考書	日本建築学会編『日本建築史図集』彰国社、 授業中に配布するプリント
備考	本科目は、科学教育の中では語られることの少ない、神話とそのニュアンスと建築とのつながりを思い起こしたり、謎の紹介、絵画、彫刻、伝統的祭りの紹介などにより、履修者の認識の世界を広げることをも目的としている。